

第1回国立市基本構想審議委員会 議事要旨

1. 日 時 平成27年5月12日(火)19:00～20:55
2. 場 所 国立市役所第1・第2会議室
3. 出席者 佐藤市長、永見副市長
(委員)
小山田委員、観音委員、佐藤委員、十松委員、細野委員、牧瀬委員、
間淵委員、渡部委員、近藤委員、佐伯委員、中島委員、中原委員、増
田委員、吉岡委員 (欠席)土屋委員
(事務局)
雨宮政策経営部長、黒澤政策経営課長、脇領政策経営係長、
赤尾政策経営係主任、青木政策経営係主任
(株)富士通総研 長谷川・若生
4. 傍聴者 3名
5. 議 事
 1. 委嘱状交付
 2. 市長あいさつ
 3. 副市長あいさつ
 4. 委員自己紹介
 5. 事務局紹介
 6. 委員長及び副委員長の選任について
 7. 諮問
 8. 審議会の今後の進め方について
 9. 第5期基本構想の検討状況について
 10. その他
6. 配布資料
 - ・ 配布資料一覧
 - ・ 資料No. 1 - 1 国立市基本構想審議委員会委員名簿
 - ・ 資料No. 1 - 2 国立市基本構想審議委員会条例
 - ・ 資料No. 1 - 3 諮問書(写し)
 - ・ 資料No. 1 - 4 国立市基本構想審議委員会 今後のスケジュール
 - ・ 資料No. 1 - 5 国立市総合基本計画(第5期基本構想・第1次基本計画)
策定要領
 - ・ 資料No. 1 - 6 各懇談会での意見のまとめ
 - ・ 資料No. 1 - 7 市民ワークショップ「市への提言」
 - ・ 資料No. 1 - 8 基本構想検討委員会報告書
 - ・ 参考資料1 国立市総合基本計画基礎調査報告書
 - ・ 参考資料2 「20年後のくにたち」検討プロジェクトチーム報告書
 - ・ 参考資料3 第15回国立市市政世論調査報告書
 - ・ 参考資料4 国立市基本構想策定に関する資料集
 - ・ 参考資料5 過去の国立市基本構想(第一期～第四期)

7. 内 容

(1) 委嘱状交付

(2) 市長挨拶

最長期計画である基本構想について審議を賜りたい。今日明日の問題は把握できても、10年先の問題は行政では見えづらい。しかし既に容易に見えている2つの長期的な問題として、人口問題と公共施設の問題がある。

人口問題は、いわゆる「増田レポート」で896の自治体消滅が指摘されたとおりだが、国立市の合計特殊出生率は1.31人、人口の維持に必要とされる2.07人を大きく下回っている。原因究明により抜本的な政策を考えなくてはならない。女性や健康で元気な高齢者の社会参加のしかけも必要であり、行政には抜本的な対策と臨時的・即応的な課題解決の両方が求められている。

もう一つは公共施設問題で、昭和の時代からつくってきたコンクリートの箱物が日本全国で寿命を迎えている。国の交付金を待つ余裕はなく、地方財政の出動率が高くなるが、ストックマネジメントと収入確保を考え、投資額を低く抑える手法を考えなくてはならない。

文教都市くにたち、ナンバーワンでなくオンリーワンの国立のまちをつくるため、高い見識で答申をいただきたい。

(3) 副市長挨拶

(4) 委員自己紹介

(5) 事務局紹介

(6) 委員長及び副委員長の選任について

委員長及び副委員長の選任

細野委員長の選任及び挨拶、中原副委員長の選任及び挨拶。

市長より審議会への諮問

会議の取り扱い

会議及び会議録(要点筆記)の公開等を行いたい。(事務局)

異議なし。

(7) 諮問

(8) 審議会の今後の進め方について

事務局より説明 資料1-4

おおよそ月1回ペースで開催、平成27年10月頃に委員のうち6名からなる起草委員会を立ち上げ、基本構想原案の起草を行っていただく。平成28年1月に最終答申としたい。(事務局)

異議なし。

(9) 第5期基本構想の検討状況について

事務局より説明 資料1-5～1-8

少子化や他自治体における土地の有効利用による地域の付加価値創出、財政状況、また今後10年間で多摩地域がどれだけ高齢化するのか、創業などの傾向も見据えて商店街がどうなっていくのかという具体的なイメージなどに特に配慮しながら、資料を読み込み議論したい。(委員)

基本構想検討委員会報告書には二律背反することも語られており、これからどうしていくか考えなくてはならない。国立の魅力や将来像が語られてはいるが、もう一つまとまりがないが、具体的な施策にしていくのが我々の役目であろう。他都市から移り住んで住みやすい地域にする必要があり、高齢者・若年者とも住みやすいというのは相反するようで難しいが、必ず「正反合」の合があると思われる。(委員)

資料をしっかりと読み込んで議論したいが、次回に特に読んでおくべき箇所はどこかお尋

ねしたい。(委員)

- 一期～四期の基本構想では、それぞれに時代背景が整理され、それぞれに10年後の都市の将来像を掲げている。その過去の変化を特に読みとってきていただけると、よりよい議論になると考えられる。(副市長)
- 抽象的ではあるが、この会議は夢を語る場にしたい。一人ひとりの夢を応援できる国立市であるとよいと考えている。高齢者や子どもたちの視点を忘れず議論したい。(委員)
- 検討委員会報告書36頁の将来人口について記載した箇所では、人口増に社会増と自然増しかないというが、自殺や交通事故、がんなどを減らすという観点をに入れてほしい。重要な観点だが多くの自治体で触れられていない。(委員)
- 住み続けられるまちかどうかということをきちんと考えていきたい。若い人が増えてほしいが、市内の大学の学生の活動や大学卒業後に学生がどの程度住み続けているのか等、きちんと知り考えたい。また高齢化の中で、歳をとっても住んでよかったですと思えるまちとはどんなまちなのか考えたい。(委員)
- 先人が築いてきたよい環境で商売をさせてもらっているが、過去の遺産に甘えるばかりでなく、地域として新たな国立ブランドをつくるのが大事だと感じている。重点事業として富士見台地区がとりあげられており、一橋大学と連携して商店街が盛り上げようとしているが、富士見台団地の空室率引き下げなども、駅周辺と南部地域にまたがるロケーション上も地域の活性化につながるのではないかと。(委員)
- 国立のイメージは高いと思うが、この審議会を通じて、住んでいてはわからないような客観的な国立の魅力を知りたい。また、周辺地域には買い物・娯楽の要素で魅力あるまちが多く競争が激しいが、外から見ても「帰ってきたいまち」となることをめざしたい。(委員)
- 資料には地図を活用して、まちの位置関係を見ながら、俯瞰的なとらえ方で議論ができるようにしてほしい。(委員)
- 次回には地図を活用した資料を用意する。(副市長)
- 4点お尋ねしたい。富士通総研はどのような業務をするのか。検討委員会報告書33頁の「基本構想のあり方」の中ほどに課題があるが、個別のスポットでなく市全体での人口誘導の政策で課題としてとらえられていることは何なのか。将来人口推計に関して、他市では複数のパターンで、税収の見込みを含めた人口区分別の推計シミュレーションをつくっているようだが、そういうシミュレーションによるデータはいただけないのか。今期から議員が委員に入らないと聞いている。その理由と留意点について教えてほしい。また基本構想は議決事項になると思うが、どこまでを議決事項とするのか。(委員)
- については、他市事例等の情報収集や委員長・事務局へのアドバイスを想定している。は、生産年齢人口を増やす必要があり、そのためには子育て世帯を呼び込む必要があり、やはり子育て施策・学校教育を魅力的にして他市から誘導したいと考えている。また、出生率向上の施策についても取り組んでいく必要があると考えている。観光についても商工観光係ができ、シティプロモーション・シティセールスを含めてこれから行っていく。は、地方創生の取組の中で人口ビジョンをつくる必要があり、ここでより詳細な将来人口推計をつくることになっている。9月くらいにはより詳細・多様なパターンの人口推計を示せる予定である。(事務局)
- については、議決の対象は基本構想のみで基本計画・実施計画は行政決定と考えている。議員の委員が抜けたのは議会改革の一貫であり、議会という機関が市の審議会に参加するのは望ましくないという判断を、議会自身でしたものであり、構成としてはその分市民委員を増やしている。(副市長)

- 以前に中野区で同様の委員をやった際には、コンサルタントを使っておらず、委員長としてかなり消耗した。富士通総研にはぜひ頑張っていたきたい。また議員については最近はこのような委員会にはほとんど参加しないようになってきている。市民の方に多く入っていただくというが趨勢だと思う。(委員長)
- 昔、高い倍率でなかなか入居できなかった富士見台地域で空室が多いと聞いて驚くとともに、対策を考えたい。増田(寛也)氏の著書も読んで勉強し、議論に臨みたい。(委員)
- 前回のワークショップに参加したが、過去の基本構想をしっかりとって未来を語れるようにしたい。自分も子育て世代であるので、その立場から子育て世代に魅力あるまちづくりを考えたい。(委員)
- 愛する国立について夢を語り、できるだけ多く実現するために、皆さんの力を合わせてご協力いただきたい。(副委員長)
- 資料が大部で恐縮ではあるがご覧頂きご議論いただきたい。(委員長)

(10) その他

- 次回は6月12日金曜日19時より本日と同じ会場にて開催。(事務局)
- 第3回は7月17日金曜日19時より本日と同じ会場にて開催。(事務局)
- 第4回以降、委員長と調整・相談の上、早期にご連絡する。(事務局)

以 上